

ラオス初の歯科衛生士養成コースが開講

ラオスで初めてのデンタル・ハイジニスト(歯科衛生士)養成コースが、2025年10月10日に開講しました。2002年に歯科医である宮田隆氏が特定非営利活動法人歯科医学教育国際支援機構(以下、団体)を設立してラオスを支援し始めてから23年、長年の夢が叶った瞬間でした。

ラオスはデンタル・ハイジニスト制度がない東南アジアで唯一の国で



開校式の様子

した。歯科医を育成する機関であるヘルス・サイエンス大学歯学部は存在しましたが、毎年歯科医になるのは約50人程度で、到底ラオス全土の国民の口腔内の健康を守るには不十分な人員でした。ラオスではマラリア、デング熱など、ラオス保健省が優先して対応すべき課題が多く、歯科にまではあまり予算を避けられていなかったのが実情でした。結果として、口腔内の状態が非常に悪い人たちが地方に多く散見されました。団体の宮田理事長はラオスの歯科の現状を座視できず、駐在員を常駐させ、2012年から本格的に活動を始めました。ラオス保健省に歯科保健活動の重要性を認識してもらうための活動から着手しました。

歯科の講義がなかったラオスの一般看護師の養成学校を卒業すると、村人の健康管理の責を担うヘルス・センター(保健所)に配置されます。村人が歯のことで相談に行っても、痛み止めを出す程度しかできませんでした。そこで、ラオス中部のビエンチャン県(首都ビエンチャンの隣の県)にある看護師学校にて、一般看護師養成コースに歯科保健活動の講義を盛り込むことにしました。同時に卒業してすでにビエンチャン県

23年の時を経て夢かなう 村人たちの健康支える人材育成へ

のヘルス・センターに在籍する看護師を対象に、歯科の知識および簡易な歯科治療の技術移転も行いました。このような活動をラオスの各地で行った結果、活動が評価されてラオス保健省より首都ビエンチャンのヘ



養成コースの開所式

ルス・サイエンス大学内に口腔保健センターの設立を要請され、センターの施設改築および全国看護師招聘による歯科の技術移転を行いました。

これまでの団体の活動が実り、また当時の保健副大臣のご尽力もあり、ようやくラオス保健省が歯科をプライマリー・ヘルス・ケアの対象として認めるに至りました。この事により、ようやく最終目標であるデンタル・ハイジニスト養成コースの地下が上がりました。ラオス保健省より同養成コースの教育面での支援を要請され、2024年3月より養成コース開講の準備に取り掛かり、開校にこぎつきました。

もちろん、デンタル・ハイジニスト養成コースの開講は始まりに過ぎません。これから学生が卒業していく、村人たちの歯の健康を守るべく主にヘルス・センターに配属されていきます。全国に配置されるまでには、まだまだ時間がかかります。しかし、歯科口腔保健活動を担う人材養成の組織がようやくでき上がりました。ほんの小さな出来事ではありますが、ラオス人の健康に寄与できたのではないかと、団体理事長および職員は感じております。